アイスクライミング３題

～初弾　アイスツリー・唐沢の滝～

登攀日：平成２４年１月１９日（日）
パーティーメンバー
Ｌ：河崎　淳一
**　　平本　三浩**
Ｒ：早川　尚武

衝動買いしたアイスアックス、ついに出番がやってきた。岩根山荘のアイスツリーで練習し、午後に唐沢の滝を登攀する、と言う計画を聞きつけて参加表明。出たとこ勝負でどうなる事やら。

仕事の都合で遅れたので、明け方に甲斐大泉駅の駅舎で２人と合流した。正確には朝のおトイレでご対面でしたが。

お空は良く晴れている。幸先がよろしく、嬉しい限り。

朝食を済ませて、岩根山荘へ向けて出発。山荘で使用料２千円也を支払い、手続きとおトイレを済ませて、早速準備に取り掛かる。件の人工氷壁は、単管足場を骨格に、溶接金網を氷の下地にして作られていた。トップロープをセットするために、おなじみの仮設階段を上って最上段へ。どこにセットするのかなぁ、と思って探していたら、驚いた事に仮設足場の手摺りだった。これって、まともに体重を掛けるものじゃないんだけど・・・。

適当にバックアップを取って、トップロープをセット。まずは先生のお手本から。続いてついに初めての氷登りにトライ。足が使えていない。全然立てていない。無闇にアックスを振り回し、ぶら下がるようにしてなんとかズリ上がった。初めてだもん、こんな程度でしょう。

ルートを少しずつ変えながら、お昼まで練習した。なかなかコツを掴めない。問題は足で立てていない事。実はこの時、モノポイントのアイゼンはまだ買っていなかったので、いつも使っているミックス用の、普通の１２本歯のアイゼンを、つま先の金具の位置を調整して、前爪を長くして使っていた。今日はとりあえずアイゼンのせいにしておく事にする。

昼食を済ませて、いよいよ唐沢の滝へ。車で金峰山荘まで移動し、そこから１時間ほど山道を登って目的地へ。

唐沢の滝は２段構成。上段は１０ｍほどであるが、落ち口の核心部で結構立っている。ちょっと手強そう。イケルかなぁ・・・。

ラストでいよいよ取り付く。下段はなんとかクリア。氷のテラスで一息入れて、核心の上段へ。アイススクリューを回収しながらのクライミングだけど、上手いやり方が分からないので、ロープにぶら下がりながらの回収となってしまった。途中で、自分で砕いた氷の大きな破片を額にぶつけ、眉間の辺りを切ってしまった。少しばかり流血・・・。

それでもなんとか、落ち口まで登り切り、無事に登攀終了。ほっと胸をなで下ろしつつ懸垂下降に移った。

遅くまで遊んでしまったので、帰り道はヘッデン下山となってしまった。足下は暗いけど、初トライでなんとか登れたので、心は明るく帰り道を急いだ。

～唐沢の滝　全景～

～第２弾　荒船山相沢奥壁
エイプリルフール～

登攀日：平成２４年２月１９日（日）
パーティーメンバー
Ｌ：河崎　淳一
Ｒ：早川　尚武

習うより慣れろ。鉄は熱いうちに打て。とばかりに続いて第２弾に突入。昨年の１０月のオジカ沢以来、クライミングっぽい事はなんにもやっていなかったので、前日の土曜日には、幕岩でのフリーを企画してもらっていた。久し振りに木下師匠も同行して頂いた。とにかく身体が固くなっているのを実感。イカンなぁ・・・。

「足に乗れていないぞぉ。フットホールドに乗せたらそのままキメなくちゃ。」ハイ、立てていないのは自覚しておるのですが・・・。

１日お付き合い頂き、一旦帰宅し、夜に再び、おなじみの城山ダムの駐車場にて合流。「道の駅下仁田」へ向かう。

２２：００　城山ダム
００：００　道の駅　下仁田

驚いた事にテントがズラリと並んでいる。みんなクライマーなのかな。

妙に冷え込む一夜を明かして移動。今日は仙台からのクライマー仲間が合流する、との事なので、待ち合わせ場所の「荒船の湯」の駐車場へまずは向かう。時間通りに合流し、荒船山の登山口へ移動。林道脇の空き地に駐車し、登山道を歩く。

７：００　「荒船の湯」
７：１０　駐車スペース　７：２０出発
８：５０　「エイプリルフール」

１時間ほど登山道を登り、標高 1,000m辺りの、山の神の祠のすぐ上にある、目印の大岩から登山道を外れて東側斜面をトラバースして行く。トレースを辿っていくと、まずは大氷柱に到着する。その少し先に目指す氷瀑へと着く。手前は細い、まさに氷柱状の氷瀑。そのすぐ先に今回の目的地がある。ここは結構幅があるので、３本ほどラインが取れる。既に先着パーティーで賑わっていた。

全体的に立っているので、易しくはない。すぐ隣のパーティーで、リードにトライしているクライマーが、いきなり目の前でグラウンンドフォールしたし・・・。

今回はアイゼン（ブラックダイヤモンド・サイボーグプロ）を用意したので、前回よりかは登れる、はず、だったけど、山はそんなに甘くない。「上手く蹴り込めねぇーーー。」と大騒ぎしていたら、となりのラインを登っているお兄さんが「膝を壁に付ける感じで蹴り込むんですよ。」なんて教えてくれたりした。「ああ、分かりました。」と返事だけは良くできた。相変わらずアックスにしがみついているので、すぐに腕が張ってくる。ダメだなぁ。そうこうしていると、またしても氷の破片で自爆。まともに鼻で受けたので鼻血を出してしまった。血管を切ったらしく、この後２日くらい、なかなか出血が止まらなかった。

まだまだ、コツが掴めない。バランスの取り方もイマイチ理解していない。１回打ち込む毎に、次の動作に迷っている。もう少し研究して、考えておかなくては。

夕刻１６時に下山を開始し、今回の登攀を終了した。

～第３弾　大谷不動～

登攀日：平成２４年２月２５日（土）・
　　２６日（日）
パーティーメンバー
Ｌ：河崎　淳一
Ｒ：早川　尚武
ゲスト：エミリー（無所属）

YOU TUBE で、「対角バランスの見本」なんてものを見てみたけど､分かったような、分かっていないような。色々と考えつつも、ついに第３弾に突入となってしまった。

前日の金曜日、うまく仕事を抜け出せたので、珍しく余裕を持って出発できた。仮泊場所が、良さそうな場所の目星が付けられなかったので、とりあえず「しなの鉄道線・信濃国分寺駅」の待合室を利用する事にした。地方駅だから問題ないだろうと、高を括っていたのがマチガイの元。夜中の１時にパトロールの人が来て、「閉めちゃうんですが・・・。」と言われ、なんとかお許しを頂くも、朝には始発の時間に早くも現れた乗客の冷たい視線を浴びてすごすごと退散する有様。次回はいい仮泊場所を見付けておかなくては、と言うのが一番目の課題となった。

天気は生憎の雨。山に向かっていくと雪に変わった。峰の原高原スキー場のＨＰでは、ゲレンデの上の方の駐車場もある、とあったので、アプローチにちょうどいいので、まずはそこを目指した。行ってみたら見当たらない。おかしいな、と思い「須坂青年の家」の方に尋ねると、その駐車場は閉鎖になりました。との事。スキーではなく、アイスクライミングに来た旨を伝えると、施設の駐車場を使用して構わないと許可を頂く事ができた。

出だしがなかなか決まらない。それでも、下から登るのは回避できたので、喜びつつ出発。まずはリフト降り場の脇の林道を下る。道が大きくカーブする所から樹林帯へ入る。なんとなく先行者のトレースがあるので、それに倣って進む。一旦林道に出て、その林道をもう一度山の中に入り、次にまた林道に出たところが大谷不動へ向かう林道になる、はず、と思っていた。ところがその林道が、カーブが連続する、地形図の記載とは違う道形になっている。いきなり現在地不明。ネットで検索してみると、ＭＴＢコースと言うものがあるらしく、どうやらこの林道が、地形図に載っていないその道らしい。１時間ほど迷って、ウロウロしているところに、後続のパーティーと出会い、とにかくもう少し下って行くのが、正解らしい事が判明。気を取り直して更に進むと、大谷不動へ向かう林道に行き当たる事ができた。とんだタイムロスをしてしまった。

とは言え、そんな事には全くめげず、お不動様の前に着いて早速テント設営。登攀の準備をして意気高々に出発する。

８：４５　「須坂青年の家」出発
１２：２０　「大谷不動　奥の院」到着

本日の目的地は不動裏の滝Ｆ２。半分雪に埋もれたＦ１を、まずはエミリーリード。途中で氷が薄いところがあり、打ち抜いて岩を叩いてしまい、アックスのピックの切先を刃こぼれさせてしまった。トップも、氷が薄いので､スクリューの打設を慎重にやっている。

程なくしてＦ２に到着。リーダーがトップで登り、トップロープをセット。メンバー各自トライに移る。下部は階段状だけど、さすがは名にし負う大谷不動、上段は垂直。結構シビレル登りだった。２回登って、２回目はアックスから手を離してしまい、しばらく宙ぶらりん状態になってしまったりとか･･･。

出だしがちょっとばかり不調だったけど、本日の目的は無事に達成。時間が押してしまったので、天場までの戻りでは、黄昏時の薄闇に包まれてしまったけれど、心楽しく雪道を進んだ。

～不動裏　Ｆ２～

２日目。今日は本流二ノ滝狙い。５時起床。出発の準備をしている頃には早くも日帰りパーティーが到着してしまった。急いで出発する。夜に降った雪は、少なからず積もっている様子。二ノ滝までのルートは急斜面のトラバースであったり、梯子があったりした。ちょっと歩きにくい道だった。軽いラッセルでルートを辿る。

６：４０　出発
７：３０　二ノ滝
７：５０　登攀開始

大谷不動では、比較的取り付きやすい部類だそうで。ああ、そうですか、比較的、ね。上の方はどーなっているんだ。かぶってないか、あれ。と心の中でつぶやく。今更どうしようもないので、悟りの境地へと近付いていく。まぁ、どうせリードじゃないしぃ。

～二ノ滝　全景～

積もった雪が、時折音もなく谷筋を滑り落ち、雪煙となって辺りを包み込む。冬の渓はどこまでも森閑としている。雪煙が舞い落ちる。白い闇に、僅かな一時、閉じ込められる。

５０ｍロープでは、途中でピッチを切った。足の置き方を考え、置き場所をもう少し良く見たら、昨日までより、幾分順調に登れた感じがした。腕も張らなくなっている。少しコツが掴めたかな。上段も、ロープにテンションを掛ける事なく、クリアする事ができた。
ヤレヤレと思い、落ち口を抜けると、「血が出てますよ。」との事。えっ、なんでだろう。自覚が無かったが、またしても氷の破片で切っていたらしく、鼻梁の真ん中に傷ができていた。鼻の頭に一筋流血。結局今回もか・・・。

１０：１０　登攀終了

少し上にある滝の様子を見物して下降する。

１２：５０　出発
１３：２０　天場。撤収
１３：２０　出発。
１４：３０　「須坂青年の家」

帰りがけ、スキー場から直接下るルートで来た、との話しを今日来たパーティーの人に聞いたので、それでは、とそのトレースを使ってみた。スキー場の近くまできたところで、迂回する感じだったので、あまり近道だとは思えなかった。昨日来たルートが一番早いよ

うに考えられる。いずれにしても、奥の院までのルートは目印が付けられていないので、うまくルートを探さないといけないようだ。今回は、アプローチで手間取ってしまったが、タイムロスをしなければ、朝早いうちに取り付く事ができる事が分かった。これは収穫だと思う。ベースを張って、少し下った沢の本流から水を確保できるし、トイレも設置されている。そして何より、氷瀑がズラリと並んでいるのがあちこちに見る事ができる。これは、ゲレンデとしてなかなかの場所である。難易度は高いけれど、腕に覚えのあるクライマーならば、たっぷり遊べてとても楽しめる場所であると思う。いずれまた、訪れたい所である。

なんだか良く分からない衝動買いをしたアイスアックスであったけど、早速活用する機会を作り、新しい世界へと誘ってくれた河崎さんに、また、今回同行し、楽しい時を過ごさせてくれたゲストのエミリーに、心から感謝します。

～雪中登攀之図～

～木の間越しの氷瀑～

～深山雪景、瀑布氷結～

～エミリーは顔見せ不可です（？）～

静寂之音
瀑布凍無音
雪煙落無音
氷中封落水
深山寂然景